


メルハバトルコ

令和4年8月
イスタンブル日本人学校
本間 和寛

なかのくちにししょうがっこう
中之口西小学校のみなさん、Merhaba! (メルハバトルコ語で「こんにちは」) トルコのイスタンブル日本人学校で働いている本間和寛です。みなさん、夏休みはいかがでしたか？毎日とっても暑いと聞きました。体調をくずしていませんか？これをみなさんが読んでくださっているところには、夏休みも終わっていると思います。1学期後半もがんばってくださいね！さて、今回はトルコの有名な場所「カッパドキア」をご紹介します。特徴的な歴史や自然から世界遺産にも認定されています。みなさんが少しでも興味をもってくれたらうれしいです！ちなみに、カッパはいませんでした 

カッパドキアとは？



カッパドキアは1985年に「ギョレメ国立公園およびカッパドキアの岩石遺跡群」として世界遺産に登録されました。文化と自然両方の条件を満たす複合遺産です。何千年、何万年もの時間をかけて自然が造り上げた岩の層。そしてそれを、必要に応じて彫り進めながら暮らした人達。自然と人間が一体となって作り出した世界遺産です。

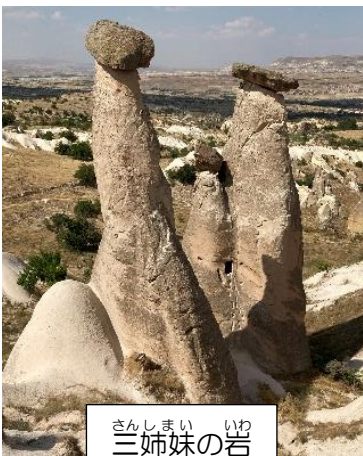
カッパドキアは、下の地図にあるようにトルコの中央に位置しています。カッパドキアは町や村の名ではなく、多くの町や村を含んだ地域一帯のことです。「カッパドキア」とは、ペルシア語で「美しい馬の国」という意味の「カトゥパトゥクヤ」が語源です。野生の馬が多く生息し、また、畜産の産地であったことからそう呼ばれたと言われています。

トルコの地方



カッパドキアの自然

カッパドキアといえば、「キノコ岩」です。キノコという表現は日本でしかしていないらしく、トルコや他の国では「妖精の煙突」という表現をします。これらの不思議な岩は、下の図のように、気の遠くなるような長い年月をかけて作り出されています。今でも少しずつ浸食されているところから新しいキノコ岩が生まれ、そして古いキノコ岩が消えているのです。その姿はまさに大自然が作り出す芸術です。今の人々は想像力を働かせ、キノコ岩の形を様々な物と重ね合わせて景観を楽しんでいます。もっとも有名なのは右下の「ラクダ岩」です。しかし、この地域に住む人々は、はるか昔からキノコ岩を含むこの岩の大地を生活に生かしてきました。下の記事では、その一部をご紹介します。



三姉妹の岩

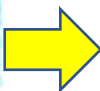


ラクダ岩



キノコ岩形成の謎

数千年前、カッパドキアは火山地帯でいくつもの山が噴火を繰り返していた



火山灰が降り積もってできた凝灰岩層の上に、新たな噴火で流れた溶岩が層を形成



長い年月をかけて、雨や湧き水、川の流れにより地層は徐々に浸食されていく



柔らかい凝灰岩は浸食が早く、堅い溶岩が上に残ったため、キノコ岩が誕生した



↑キノコ岩が生まれているところ
何万年後かには、新しいキノコ岩になっているかも…

カッパドキアの歴史

カッパドキア地方には、とても古く、そして複雑な歴史があります。今回はそれをできるだけ簡単に紹介しようと思います。分からないことがあったら先生にお願いして、本間先生に聞いてみよう！



ローマ帝国の中のカッパドキアの位置(Wikipediaより引用)

カッパドキアに人が住み始めた時期は正確には分かっていませんが、紀元前(西暦より前)2000年ころ、ヒッタイト人がやってきたと言われています。紀元前1200年頃ヒッタイト帝国が滅んでから、紀元前6世紀までカッパドキアに関することはほとんど分かっていません。その後も様々な王朝が入れ替わりますが西暦17年ついにローマ帝国の支配下に置かれます。ローマ帝国が東西に分かれると、カッパドキアは東ローマ帝国(ビザンチン帝国)に属します。西暦1071年の戦いで東ローマ帝国を破ったセルジューク朝がカッパドキアを支配し、セルジューク朝が崩壊した後はオスマン帝国が支配しました。現在はトルコになっています。

カッパドキアの人々の生活

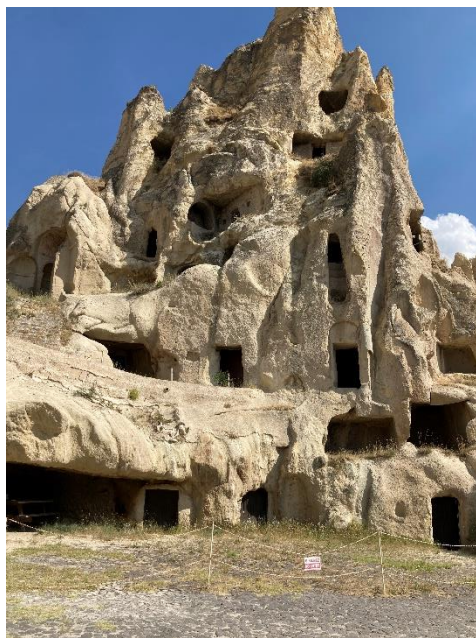
カッパドキアがあるアナトリア高原は、標高1000mの位置にあり、夏は暑く、1年を通して空気が乾燥していますが、朝晩は気温が下がり、肌寒くなります。雨は、おもに冬と春に降ります。有名なシルクロードを含め、重要な交通ルートとして古くから人と物の往来が盛んでした。そんな場所にある不思議な形をした岩の中につくられたのが、洞窟の家です。紀元前3000年頃から人びとはこの洞窟の家で暮らしてきました。この地方の住民は岩の多い場所を好み、石を利用し、あるいは自然の岩を掘って住んでいました。

明確な時期は分かっていませんが、ビザンチン時代には、カッパドキアにキリスト教の修道



無数の部屋が広がるカイマクル地下都市

僧たちが移り住むようになりました。俗世間から逃れて修業するために、この地を選んだのです。そして、敵から身を守るため、何層にもなる巨大な地下都市をつくりました。ありの巢のような内部には、礼拝堂や炊事場などいくつもの部屋があり、それぞれをつなぐ狭い廊下には、敵の侵入を防ぐ石のふたが置かれていました。



写真左は、「ギョレメ野外博物館」に多くある洞窟教会の1つです。右側は「暗闇の教会」に残されているフレスコ画です。

「ギョレメ」とは、トルコ語で「見えない・見てはいけない」という意味です。この地では、キノコ岩などの凝灰岩をけずって多くの教会や住居を作りキリスト教

徒が隠れて生活をしていました。洞窟内は気温や日光、湿度の影響を受けにくく、千年以上の月日が経っても色鮮やかなフレスコ画が残っています。

オスマン帝国がこの地を領有するようになると、この地に住もうと移住してきたムスリム（イスラム教徒）の人たちは、新しく自分達の洞窟の家を造って住み始めました。この洞窟の家は、キリスト教徒たちの家とは異なり、家同士が中でつながっておらず、洞窟の入口には石造の開放的なテラスが設けられました。これが洞窟の家の一般的な様式となりました。



現在もカッパドキアの古い地区にある家の多くが洞窟とテラスを組み合わせた形をしています。人々は冬には暖かい洞窟で暮らし、暑い夏になると明るく開放的なテラスで過ごします。洞窟の家には、食糧貯蔵など、決められた目的のために使われる特別な部屋があります。

洞窟と石造の住居を使用しているオルタヒサル街並み

気球ってよく浮かんでられるよね。

今回のメルハバトルコはいかがでしたか？自然と歴史が作るカッパドキアについて、少しは興味をもってもらえたでしょうか？9月は日本人学校の体育祭があります。そこで今回のメルハバトルコは「2022 イスタンブル日本人学校体育祭特集」をお送りします。お楽しみに！

